

令和7年度 綾瀬市立綾北小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	秩序ある明るい社会を築くために、心身ともに健康で、創造性と実践力のあるたくましい子どもを育成する。 ○まごころと思いやりのある子 ○健康でねばり強い意志のある子 ○生きてはたらく学力を身につけた子	
学校経営方針 (グランドデザイン)		
今年度の重点目標	育てたい資質・能力 ○かかわりつなげる力を育てる ○考え表現し伝え合う力を育てる ○ねばり強く取り組む力を育てる	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「生きてはたらく学力を身につけた子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	昨年度の結果より、「進んで勉強した」と回答している児童が13%増加しています。また、「意欲的に取り組んだ」と回答された保護者も17%ほど増加しました。「家で授業のことを話す」「できると嬉しい」など、学習に主体的に取り組む、学ぶことへの喜びを感じている児童が増えたようです。今後も「学ぶ楽しさ」を味わわせることができる授業づくりを目指していきます。ただし、家庭学習に関しては感じ方に差があるようです。宿題や家庭学習への取り組みせ方など、保護者の方々とも懇談会等で話題に挙げていきたいと考えています。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	9割の児童がめあてをもつて頑張ったと肯定的な回答をしています。めあてをもつて練習を積み重ね、それを、保護者・地域の方や異学年の児童に発表する機会をもつことで、児童にとって満足感や達成感を得ることができたと捉えています。また、「わが子は意欲的に取り組んでいる」と感じた保護者については9割5分を超え、昨年度より増加しています。家庭でも行事の練習をする姿が見られた。行事に対して肯定的な会話があったというご意見もあり、児童を通して学校の様子が伝わっていると思われます。しかし、少数ではありますが、めあてをもつてがんばれなかったと感じている児童もいることから、全児童が満足感や達成感を得られるように、よりよい取り組み方を模索し、さらなる改善について今後も検討を重ねていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「まごころと思いやりのある子」を育てる指導を積極的にしている。	9割の児童が「友達と仲良くできた」と答えています。この結果は、前年と比べて保護者の「そう思う・ややそう思う」と共に、向上傾向となりました。しかし、取組の中で述べた通り、言葉遣いやルール順守に課題があるため、友達の良い気持ちを考え、仲間づくりを行う、という『思いやり』の部分においては、これからも学級や学年単位から計画的に指導・支援していく必要があると考えています。引き続き、教職員自身が思いやりをもって児童に寄り添い、友達同士の関わり合いで日々必要な支援や助言を心掛け、友達と仲良くなる仕掛けづくりを、組織的に実践していきます。ご家庭でも言葉遣いやルール順守について声掛けしていただき、同じ方向性で子どもたちを育てていきたいと考えていますので、家庭教育からのバックアップのご協力をよろしくお願いしていきます。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	学校は、どの状況においても、児童にとって安心して楽しく過ごせる場所でありたいと考えています。そのため、教職員が工夫を重ねて学級・学年間を中心によりよい人間関係づくりに取り組んできました。今年度、約8割の児童は満足しているという結果でした。よりよい学級集団づくりを基本として、学年・学校全体でさらにきめ細かい支援・相談体制を作り、多くの児童が満足できるようにしていきます。そして、児童が相互に関わり合いができる機会や自分の力を発揮できる機会をさらに増やして社会性の基礎を育むよう取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	「努めている」と答えた保護者が5割を超え、昨年度よりは向上しましたが、まだまだ、満足いただける結果ではありません。子どもたちの声をしっかりと受け止め、早期発見・再発防止に努めてまいります。「あまり、思わない・そう思わない」と感じた保護者の方は、是非、そのままにせず教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーへ早急に相談いただきたいと思います。学校では、今後も学級のよりよい人間関係づくりを基本に、児童が相談しやすい雰囲気作りを行い、いじめの未然防止・早期発見に一層努めていきます。また、学校での取組に対してご理解・ご協力が得られるよう、保護者に向けて積極的に発信していきます。教職員は、研修を通して、自己の人権感覚の向上といじめ防止への意識のさらなる向上に努めていきます。
6 保健管理	学校は「健康でねばり強い意志のある子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	今年度も、健康で安全な生活について、日々の生活や学習活動の実態に応じてその都度共通理解し、全校児童に対して指導を積み重ねてきました。これにより、児童の意識を継続的に高め、手洗いの励みや、早寝早起き、歯磨き、好き嫌いをなく食生活、適度な運動が大切であること等を意識化、習慣化することができてきました。しかし、高学年児童の中には、休み時間の外遊びに消極的な様子が見られる場面がありました。今後も引き続き計画的に指導を行う中で、体を動かして遊ぶことや運動の大切さをより実感できるような指導を工夫していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	「安全」は学校にとって最重要課題の一つであり、施設の点検には全職員協力のもと、毎月細心の注意を払って実施しています。必要な修理箇所や改善点を適切に挙げ、その都度校務作業員や教育委員会に修理・点検を依頼、順次対策を行っています。安全教育については、年間を通じて各学年児童の実態に応じて計画的に指導を行いました。今後も地域の登下校ボランティア「見守り隊」の方や、PTA校外指導委員の方に協力していただき、事故、けがのない安全・安心な学校をめざしていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	引き続き全職員で情報を共有し、児童の実態を把握して、児童理解に努めていきます。そして、一人ひとりのニーズに合った支援体制を充実させ、支援や相談を積極的に行っていきます。また、保護者の要望に応じて、専門機関の相談員などとも連携を図っていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標を具現化するために、学校グランドデザインに掲げためざす児童像「生き生きと学び合う子」の育成に向けて、「かかわりつなげる力・考え表現し伝え合う力・ねばり強く取り組む力」を各行事や教育活動を通して育成できるように、各グループが担当の所掌について「児童の実態把握・計画・実践・評価・改善」を行い、運営組織の充実を図ります。今後もよりよい学校運営のために、担当総括教諭の4名が中心となり、各グループが連携しながら、活発で効率的な運営が機能するよう努めていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための校内研究の取組に力を入れている。	昨年度まで積み上げてきた校内研究をベースとして、子ども達の「語むこと」の力を伸ばすだけでなく、教師の国語科の指導力も向上できるように研究を進めていきます。どのように研究を進めていくか課題は多いですが、全職員で共に考え、思いをつにつにしながら歩んでいきたいと思います。よりよい授業・研究を進めていくために、教職員同士のコミュニケーションを図り、互いに高められるような環境が作れるように努めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者は、昨年度よりやや向上し、6割を超えました。しかし、まだ満足いただける結果とは言えないので、学級経営の検証や分析を行い、今後も児童の実態把握にさらに努めていく必要があります。教職員による情報交換や児童のスクールアンケートなどで、児童の実態や課題を細かく把握し、担任や学年、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーがチームで対応し、支援・指導を行い共通理解を図ります。さらに、児童一人ひとりの対話を大切に児童同士のコミュニケーションが円滑に進むような取組等も検討し推進していきます。「そう思わない・わからない」と答えている方は、昨年度よりは少なくなりましたが、そういった保護者の方のニーズを把握するため、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーの教育相談活用を促したいと考えています。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	学校からの便りで「学校の取り組みが伝わっている」と回答した保護者の割合は、昨年度は6割程度でしたが、今年度は9割を超える結果となりました。しかしながら、取組や行事の予定はよく分かるが、活動の様子が分かりづらいなどの意見もいただきました。紙面の都合上、全ての活動の詳細をお知らせすることは難しいですが、PTA広報紙などの協力を得ながら、今後も様々な取組や活動の様子をお知らせできるよう努めていきます。また、文書の配付だけでなく、ホームページや学校情報配信アプリなどを活用し、学校から必要な情報が速やかに、また確実に保護者の手元へ届くように市と協働していきたいと考えています。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】		
・中学校で使用している「スクリレ」を活用することで、学校の様子やお手紙などが保護者の手元に届きやすくなるのではないかと。		
・フェスティバルなど、地域と小・中学生が一緒となつてできる行事が増えていくとよい。		
・より自分事となる学ぼうとする意欲がわく。子どもも、教師も共に学ぶ姿勢を大事にしたい。		
・言葉遣いやルールを守ることが課題として挙げられる。家庭と学校、地域が同じ方向を向いて、指導できるとよい。		
・感謝の気持ちを素直に表現できる児童が多いことは、よい傾向である。		
・子ども達の悩みに寄り添える体制づくりを進められた。		
・地域に対して、学校の様子や子ども達の様子から困っていることやお願いしたいことを躊躇せず発信してほしい。そうすれば、地域としても協力できることが増える。		